

「お正月に遠くの山を望む(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

毎年、年末年始といえば、北軽井沢かスウェーデンか、いずれにしてもわざわざものすごく寒い土地で過ごしている。しかし、今年は今執筆中の論文のメ切があと数日と迫っていて、どこにも出かけられなかった。しかし、せめて両親のいる実家で、お雑煮だけは食べたいと思い、1月2日に日帰りで出かけてきた。東京都内---というよりもよく考えたら文京区外に出るのも久しぶりだった。

両親はもともと八王子に住んでいたが、多摩丘陵の坂の多い住宅地で、商店やスーパーも少なく、生活に少し不安があった。そこで、数年前に母の生まれ故郷の埼玉小川町(埼玉県比企郡)のマンションに引っ越しもらった。マンションの隣が大きなスーパー、小川町駅も役場も日赤も郵便局もコンビニも、すべて歩いて行ける場所があるので、父が車の運転ができなくなっても、生活に支障はない。また、親戚(母の妹や私のいとこたち)が近くに住んでいるのも安心である。

私の自宅(文京区小石川)から実家までは、東上線でも1時間ちょっとだが、いろいろと荷物が多いので、今回は車で行くことにした。練馬から関越道に乗れば、あとは1時間かからない。



練馬入口から東松山 IC までの間に、遠くに富士山が見える場所が数カ所ある。今の時期は空気も澄んでいるので、晴れていれば必ず見える。私は元日に富士山を見ていなかったのが、是非見たいと思っていた。

最初に富士山が見えるのは、「三芳パーキング」付

近からである。このあたりは「三富新田」(さんとめしんでん)と呼ばれる、古くからの新田集落で、いわゆる「武蔵野の面影」をいまだに残している地域である。畑とケヤキの木々の向こうに、真っ白な富士山が見えて嬉しかった。



このあたりから見る富士山は、手前に景信山(高尾・陣馬ハイキングコースの山の一つ)や道志山塊に邪魔されて、およそ五合目より上しか見えない。従って今の時期は真っ白に雪化粧していて美しい。



富士山は見る場所(山頂を見た方角)によって、見え方が大きく異なる。最も美しいと言われているのは、山中湖と河口湖の間にある忍野(おしの)地区である。忍野から見る富士は、「吉田大沢」という侵食谷が中央に見えて、ほぼ左右対称に見えるのだ。また、富士山は、火山帯の方向である北西~南東に向けて細長いので、忍野のある北東から見ると、裾野が広く見えるのである。三好 PA あたりから見た富士山は、方角的に忍野と一致するので、ちょうど吉田大沢が中央に来て、非常に美しく見える。もし家を建てるなら、このあたりの富士山が見える土地がいいと思っている。